

1 小学校の児童引き渡し訓練について

(1) 小学校の引き渡し訓練の課題と災害別基準の整備について

- ① 引き渡し訓練が実際の災害時の行動と乖離している面があると考えられるが、市としてどのように受け止め、今後どのように実践的な訓練へ近づけていく考えか伺います。
- ② 令和8年度の訓練では、雨天時に「雷や大雨が心配されるため引き渡しを行います」という短い連絡だけで実施された学校もあり、どの災害を想定しているのか分からないという声がありました。災害の種類によって対応は大きく変わるため、学校ごとに判断が分かれるのではなく、災害別の引き渡しマニュアルを市として標準化し、教育委員会と危機管理課が連携して共通のガイドラインを作る必要があると考えますが、市の考えを伺います。

(2) 引き渡し時の本人確認手段の統一とデジタル化について

- ① 引き渡しカードは引き渡しの誤りを防ぐための重要な確認手段ですが、学校によって様式が違ったり、そもそもカードがない学校もあると伺いました。  
また、保護者が持参しても確認されないケースもあり、保護者の負担だけが残る現状です。こうしたバラつきを解消し、安全性と効率性を高めるため、市として統一的な運用や改善を進めていく考えを伺います。
- ② 引き渡しの連絡は、実際にはコドモン等のデジタルアプリで行われている現状を踏まえ、アナログとデジタルの役割分担を市としてどのように整理していくのか。また、デジタル引き渡し確認システムの導入についての考えも伺います。

(3) 児童の「帰宅困難児」への対応方針と防災計画への位置付けについて

- ① 地域防災計画に児童の「帰宅困難児」が位置付けられていない現状を踏まえ、災害の想定や引き渡しの基準、保護者への情報提供の方法などについて、市として学校と連携し、基本方針を整理していく考えを伺います。

② 次回の地域防災計画の改定において、「帰宅困難児」を定めておくことや、長期滞在に必要な備蓄品の配備をいつまでに検討するのか伺います。

(4) 災害時の混雑緩和と実効性ある引き渡し方法の検討について

雨天時や学校周辺の混雑など、実際の災害時には車での迎えが渋滞になるリスクも考えられます。訓練時からの原則徒歩・自転車での来校や地区ごとや学年別の時差引き渡しのシミュレーションなど、実効性のある改善策を検討していく必要があると考えますが、市の考えを伺います。

## 2 駒ヶ根市との友好都市交流について

(1) 友好都市交流の現状把握について

① 市として、各友好都市との交流内容や実績をどのように把握・整理しているのか伺います。

② 友好都市ごとに交流の形や歴史には違いがありますが、こうした違いをどのように整理し、今後の友好都市交流の強化や方向性づくりにどのように生かしていく考えか伺います。

(2) 「行政同士の交流」から「市民同士の交流」への発展について

駒ヶ根市とは、かつてスポーツ交流やりんご収穫、シラス漁など、市民同士の交流が盛んに行われてきました。こうした市民レベルの交流を、今後再び広げ、関係人口の創出につなげていく考えがないか伺います。また、市民団体や学校などが交流を進める際、市として後押しや仕組みづくりが考えられないか併せて伺います。

(3) 教育・文化・観光の活用について

早太郎としっぺいの伝説は、磐田市と駒ヶ根市をつなぐ貴重な歴史資源です。この物語を、今後の磐田市の魅力づくりにどのように生かしていく考えか伺います。また、駒ヶ根市との交流の歴史を、市民が身近に感じられるような取組についても併せて伺います。

(4) P R ・ 情報発信と周知の強化について

学校給食のメニューの採用や交流イベントなどの取組の周知が不十分な状態にとどまっていると感じています。駒ヶ根市との交流を市民に身近に感じてもらうため、現在の情報発信と周知の課題をどのように捉え、今後どのように改善していく考えか伺います。